

5-E イブキ(伊吹)の巨木 (ビャクシン)

ヒノキ科ビャクシン属
Juniperus chinensis

※園芸種のカイツカイブキは分類しない。

■イブキの巨木評価基準

- AA 幹周おおむね 10m 以上の単幹樹、同等評価のイブキの巨木。
- A 幹周おおよそ 8~10m の単幹樹、同等評価のイブキの巨木。
- B 幹周おおよそ 5~8m の単幹樹、同等評価のイブキの巨木。
- C B 評価以下のイブキの巨木。



■イブキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
AA	宝生院のシンバク 写真 I-001	株周 M14.4m(0.2 2014)	20m	香川県小豆郡土庄町上庄	国特
A	法雲寺のビャクシン 写真 I-002	M9.83m(1.3m 2014)	26m	兵庫県赤穂郡上郡町苔縄	県
A	藤原のイブキ 写真 I-003	M8.95m(1.3m 2014)	8m	愛媛県四国中央市富郷町津根山藤原	県
A	下柏の大柏 写真 I-004	M8.27m(1.3m 2007)	14m	愛媛県四国中央市下柏町柏模	国
A	大瀬崎・黒龍のビャクシン 写真 I-005	M7.3m(1.3m 2014)	10m	静岡県沼津市浦江梨	国
A	大瀬崎・御神木 写真 I-006	株周 M6.6m(1.3m 2014)	12m	〃	国
A	大瀬崎・玄武のビャクシン 写真 I-007	M6.45m(1.3m 2014)	15m	〃	国
A	大瀬崎・水神のビャクシン 写真 I-008	M5.62m(1.3m 2014)	18m	〃	国

A	大瀬崎・神池のビヤクシン 写真 I-009	M7.98m(分岐 0.5 2014)	12m	〃	国
A	大瀬崎・朱雀のビヤクシン 写真 I-010	株周 M7.5m(0.2m 2014)	10m	〃	国
A	大瀬崎・白虎のビヤクシン 写真 I-011	M5.3m(1.3m 2014)	8m	〃	国
A	大瀬崎・龍神のビヤクシン 写真 I-012	M4.55m(1.0m 2014)	10m	〃	国
B	潮崎本之宮神社のビヤクシン 写真 I-013	M7.72m(1.3m 2014)	18m	和歌山県串本町本町串本	町
B	島役所跡のビヤクシン 写真 I-014	株周 M7.05m(1.3m 2014)	23m	東京都三宅島三宅村神着	都
B	建長寺のビヤクシン 写真 I-015	M6.6m(0.5m 2014)	13m	神奈川県鎌倉市山ノ内	市
B	沼のビヤクシン 写真 I-016	M6.45m(分岐 0.5m 2007)	17m	千葉県館山市沼 十二天神社	市
B	万福寺のビヤクシン 写真 I-017	M5.27m(1.3m 2012)	9m	和歌山県和歌山市松江西 3-27	なし
B	若宮神社のイブキ 写真 I-018	6.1m	15m	香川県善通寺市中村宮東	なし
B	光専寺の柏楨 写真 I-019	7.1m	15m	和歌山県御坊市塩屋町南塩屋	県
B	城願寺のビヤクシン 写真 I-020	M6.8m(1.3m 2008)	18m	神奈川県湯河原町城堀 252	国
B	古長禅寺のビヤクシン(最大株) 写真 I-021	M6.3m(分岐 0.5m 2008)	11m	山梨県南アルプス市鮎沢	国
B	自性院のカイズカイブキ 写真 I-022	M5.25m(分岐 0.3m 2014)	12m	大阪府池田市渋谷 3 丁目	市
B	善徳寺のビヤクシン 写真 I-023	6.1m	10m	和歌山県田辺市芳養町 1330	なし
B	加畑賀茂神社のビヤクシン 写真 I-024	6.0m	15m	静岡県賀茂郡南伊豆町	なし
B	諏訪神社のビヤクシン 写真 I-025	5.5m	16m	岡山県勝田郡勝央町河原	町
B	老大木柏楨 写真 I-026	5.5m	16m	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城	町
B	大宮八幡神社のイブキ 写真 I-027	5.2m	19m	愛媛県松山市上野町	なし
B	吉久のイブキ 写真 I-028	M5.2m(1.6m 2013)	15m	愛媛県東温市吉久	市
B	市木のイブキ 写真 I-029	5.0m	18m	三重県南牟婁郡御浜町下市木	県
B	宝泉寺のイブキ 写真 I-030	5.0m	20m	愛媛県西予市城川町田穂	市
B	有馬の大イブキ 写真 I-031	4.9m	9m	三重県熊野市有馬町	市
B	清滝のイブキ 写真 I-032	M5.49m(1.3m 2014)	10m	滋賀県米原市清滝字塔の中	市
B	恩徳寺の結びイブキ 写真 I-033	M3.95m(1.3m 2008)	5m	山口県下関市豊北町神田肥中	国
B	春日大社のイブキ 写真 I-034	6.55m	7m	奈良県奈良市春日野町	なし

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	塚本のビャクシン 写真 I-035	5.4m	25m	長野県長野市若徳川田塚本	県
B	栄福寺のイブキビャクシン 写真 I-036	5.1m	12m	和歌山県岩出市湯窪 93	県
C	十禅律院のイブキ 写真 I-037	4.4m	12m	和歌山県紀の川市粉河	なし
C	豊浜町公民館のイブキ 写真 I-038	4.9m	17m	香川県観音寺市豊浜町和田浜	なし
C	善光寺のイブキ 写真 I-039	4.65m	17m	兵庫県多可郡多可町中区東安田 713	県
C	道成寺のビャクシン 写真 I-040	4.65m	15m	和歌山県日高市日高川町鐘巻	なし
C	室浜大明神のシンパク 写真 I-041	株周 7.0m	8m	香川県三豊市詫間町室浜	なし



写真 I-002
日本一の単幹イブキ
ほうらんじ
法雲寺のビャクシン

単幹イブキとしては日本一。南北朝時代に活躍した赤松円心の円心堂の前に立つ。このイブキは円心が植えたといわれている。

4mで大小5分岐していたが、裏側にあった細い幹が破損。主幹は波打ち、古木の風格がある。着生木も多く、ムラサキシキブやナンテンも見られる。



写真 I-001
日本一のイブキ

ほうしよういん
宝生院のシンパク

名前はシンパクであるが、樹種はイブキである。地上1mで三分岐し、それぞれの幹周が7.8m、7.8m、6.0m、圧倒的な迫力である。あまりに巨大過ぎて、敷地内から樹形が大きくはみ出している(右写真)。見る方向によって随分樹形に変化があり、この巨大さを小さな画面で表現する事は、実に至難な作業である。

応神天皇が植えたという伝説があるが、この巨大さを見ると、信憑性が益してくる。「縄文杉」「北金ケ沢のイチヨウ」「蒲生の大クス」等と共に、日本最大の樹木の一本に挙げられる。



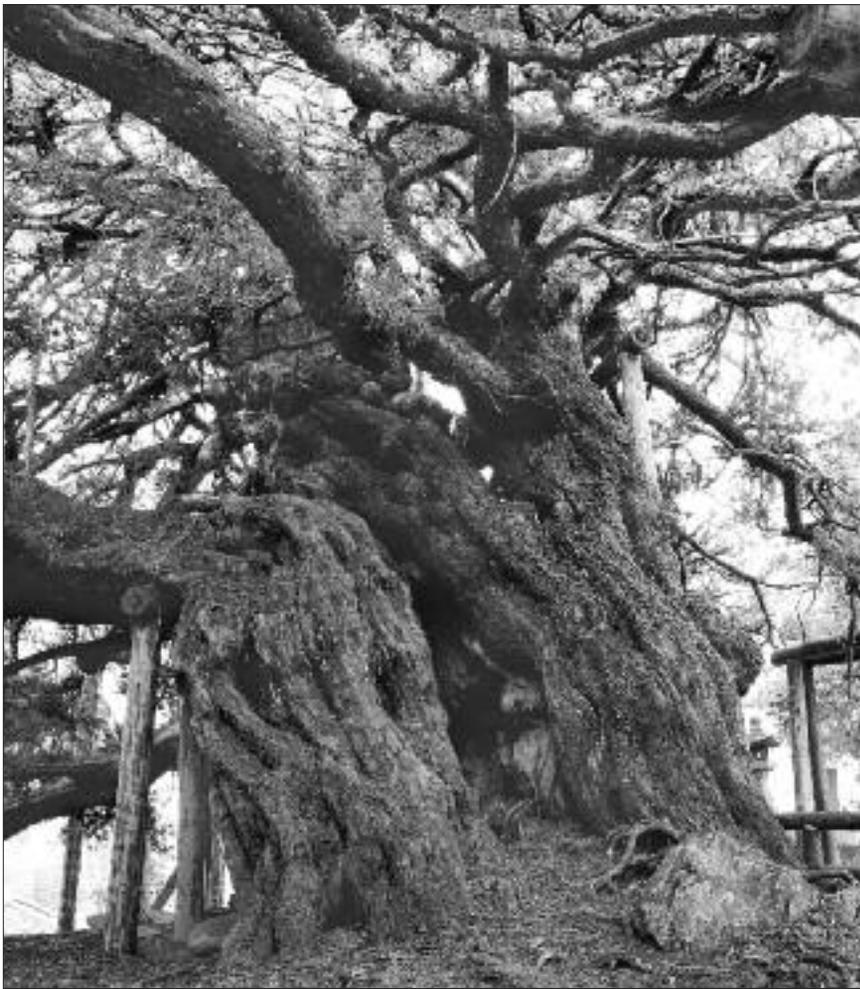


写真 I-003
ふじわら
藤原のイブキ

藤原集落の観音堂前に立つ。3mで大きく3分岐し、すぐに多数に分岐、枝は地面に着く程に垂れ、多くの支柱によって支えられ、まるで松の名木のような樹形をしている。

▼写真 I-004
しもかしわ たいはく
下柏の大柏

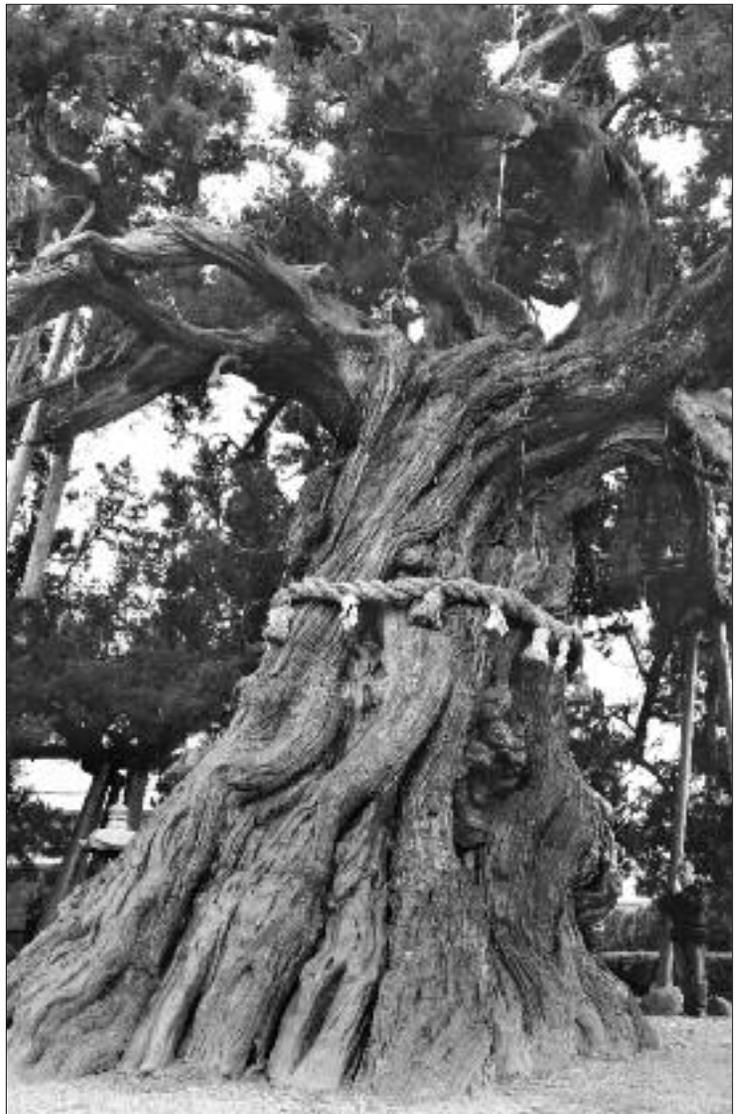
大柏とはイブキの事で、この地の地名「下柏町柏楨」(しもかしわ まちびやくしん)はこの木が由来。

4mで5分岐し、四方に枝葉を伸ばしほとんど損傷がなく、根元広がり安定した樹形をしている。

▼写真 I-013

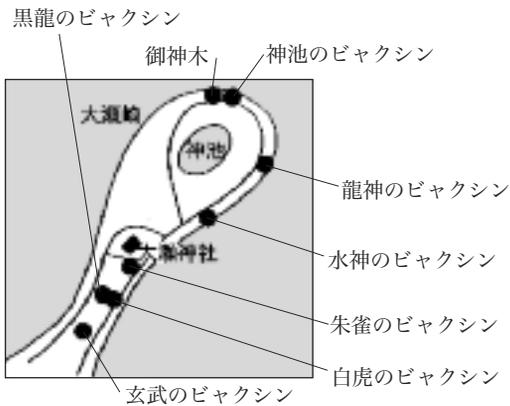
しおぎもとのみや
潮崎本之宮神社のビヤクシン

拝殿脇の窮屈な空間に巨大なイブキが立つ。場所柄、何度も津波の被害にあったと思われ、そのためか幹は大きく二つに割れ、主幹は金属の結束バンドを巻かれて、何とか倒木を防いでいる。(写真・石田徹)



おせぎき 大瀬崎の天然ビャクシン(イブキ)巨木の森

駿河湾に突出するようにして大瀬崎があり、半島には日本唯一の「天然ビャクシン巨木の森」がある。巨木評価をする目的で、2014年に調査した。大瀬神社から先端は神域で、ビャクシンの巨木は保護されているが、半島手前のガレ場にあるビャクシンの巨木は放置された状態。天然ビャクシンの巨木群生が日本唯一であり、全てA評価を与えてよいと考える。



▼写真 I-006

おせぎき ごしんぼく 大瀬崎・御神木

大瀬崎の先端にある大瀬神社の御神木である。根元で二分岐して、合体木の様に立上って、単幹樹に見える。一般に「大瀬崎のビャクシン」といえば、本樹をさす。



▲写真 I-005

おせぎき こくりゅう 大瀬崎・黒龍のビャクシン

大瀬崎最大株。神社手前のガレ場があり、主幹は白骨化した部分が多く、捩じれるように斜上し、地上5mで4分岐、根元が大きく広がる樹形。全く放置された状態で、これ程の巨木が顧みられない状態である事に驚愕する。

▼写真 I-009

おせぎき かみいけ 大瀬崎・神池のビャクシン

御神木より40m離れた遊歩道沿いに立つ分岐幹のビャクシン。





▲写真 I-007
おせぎき げんぶ
大瀬崎・玄武のビヤクシン

大瀬神社手前のガレ場に立つ見事な単幹ビヤクシンである。奇怪な樹形の多い中、まるで大杉の様に立つ姿は大瀬崎の主の風格がある。幹周の数字は最大株より少し小さいが、姿形から大瀬崎一のビヤクシンと評価されるが、放置状態は残念である。



▲写真 I-008
おせぎき すいじん
大瀬崎・水神のビヤクシン

海岸近くに立つもので、4mで大小3分岐し、分岐部で大きく膨らみ、天高く聳える見事なビヤクシンの巨木である。幹周はM式では最もくびれた部分を測定するので小さく出たが、実感される大きさは幹周7m程。



◀写真 I-010
おせぎき すじやく
大瀬崎・朱雀のビヤクシン

▼写真 I-011
おせぎき びやっこ
大瀬崎・白虎のビヤクシン



▼写真 I-012
おせぎき りゆうじん
大瀬崎・龍神のビヤクシン

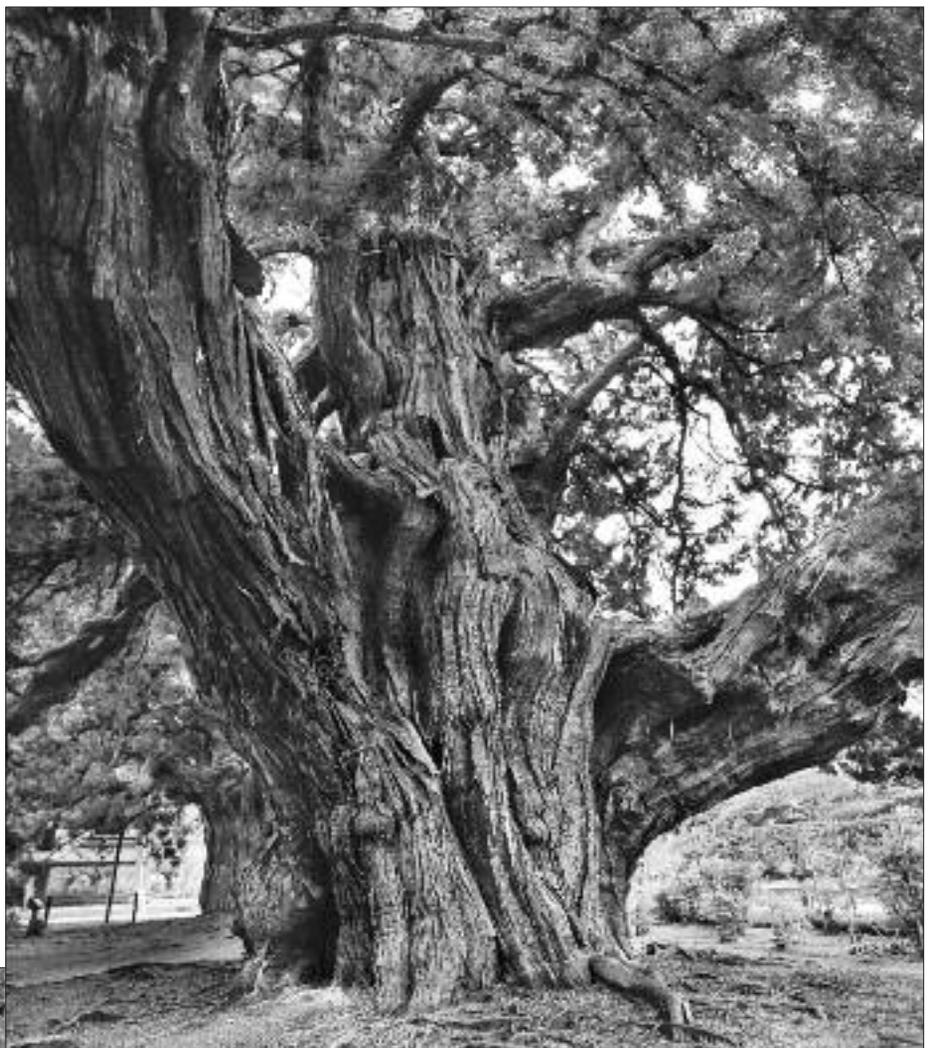




▲写真 I-014

しまやくしよあと
島役所跡のビャクシン

神着のビャクシンとも呼び、三宅島の島役所跡の敷地に立つ巨大なビャクシン。根元で2本が癒着して立上がる樹形。(写真・Web画像)



▲▼写真 I-015

けんちようじ
建長寺のビャクシン

建長寺の山門と仏殿の間にビャクシンの巨木が7本植えられ、ビャクシンの森を形成している。その中で最大株が上の株。建長寺創建時に植えられたと伝えられ、樹齢750年以上である。下のイブキは最も雰囲気のある樹形をしたもので、枝葉を大きく垂れ、枝垂桜の古木を見るようである。



◀写真 I-016

ぬま
沼のビャクシン

見事な樹形をしたイブキで、地上1~2mで10本に分岐し、谷側に斜上するように伸びている。



▲写真 I-017
万福寺のビャクシン

地上2mで幹を水平に3分岐し、くねるように上部に枝葉を伸ばした奇怪な樹形をしている。主幹は波打ち、古木の風格がある。



▲写真 I-018
若宮神社のイブキ

(写真・Web画像)



▲写真 I-019
光専寺の柏楨

紀伊半島では海岸の絶壁等にイブキが自生していて、頑健で寿命が長く、樹形がよい事等から好まれて、この地方のほとんどの寺院境内に植えられているという。そのため、イブキの巨木は紀伊半島に多い。

(写真・谷田元彦)



▲写真 I-020
城願寺のビャクシン

相模湾を見下ろす高台にある城願寺の石段を登った境内に立つ。主幹は振り上がるもので、実に見事な樹形を呈している。樹勢もよく、大きく枝葉を広げた姿は、幹周以上の感動がある。



◀写真 I-021
古長禅寺のビャクシン

寺の前の四角い空間の四隅に4本のイブキの巨木が植えられている。その最大のイブキで、0.5mで2分岐し、東幹が1mで3分岐、一本は枯死。主幹は地上5mで大きく枝葉を垂れる。

写真 I-022▶
自性院のカイツカイブキ

イブキの園芸種で、江戸時代中期に作られた。葉の先端が巻き上がるように伸び、樹形がより美しく見える。園芸種として作られた初期の個体として重要である。(写真・Web画像)



◀写真 I-023
善徳寺のビャクシン

境内に立ち、根元上部で3分岐し、境内を覆うような見事なイブキである。(写真・石田徹)

写真 I-024▶
加畑加茂神社のビャクシン

主幹は枯死し、側幹がかるうじて生きている老木である。

(写真・石田徹)





▲写真 I-025
諏訪神社のビヤクシン
(写真・Web 画像)



▲写真 I-026
老木柏楨
(写真・石田徹)



▲写真 I-027
大宮八幡神社のイブキ
(写真・石田徹)



▲写真 I-028
吉久のイブキ
(写真・Web 画像)



▲写真 I-029
市木のイブキ



▲写真 I-030
宝泉寺のイブキ
(写真・石田徹)



▲写真 I-031
有馬の大イブキ
(写真・Web 画像)

▼写真 I-032 元、勝願寺境内にあったと伝えられ、5m
清滝のイブキ で2分岐、枝は枝垂れるように伸びる。



▼写真 I-033
恩徳寺の結びイブキ

園芸種のカイツカイブキの巨木である。特筆すべきは、3m 付近で多数に分岐した幹と枝が絡みあい、結んだようになっている事。仕立てによるものと考えられる。





▲写真 I-034
塚本のビャクシン
(写真・Web 画像)



▲写真 I-035
春日大社のイブキ
(写真・谷田元彦)



▲写真 I-036
榮福寺のイブキ
(写真・谷田元彦)



▲写真 I-037
十禅律院のイブキ
(写真・石田徹)



▲写真 I-038
豊浜町東公民館のイブキ
(写真・Web 画像)



▲写真 I-039
善光寺のイブキ
(写真・谷田元彦)



▲写真 I-040
道成寺のビャクシン
(写真・巨樹巨木巡礼 HP)



▲写真 I-041
室浜大明神のシンパク
(写真・巨樹巨木巡礼 HP)

5-F ネズ(杜松)の巨木 ヒノキ科ビャクシン属 Juniperus rigida

(ネズミサシ・トショウ)

■ネズの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5m 以上の単幹樹、同等評価のネズの巨木。
- B 幹周おおむね 3~5m の単幹樹、同等評価のネズの巨木。
- C B 評価以下のネズの巨木。

■ネズの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	金江の大ムロノキ 写真 N-001	M4.5m(1.3m 2009)	10m	広島県福山市金江町本谷	市
B	二宮のネズ 写真 N-002	M4.26m(1.3m 2012)	11m	香川県三豊市高瀬町羽方	なし
B	川路のネズミサシ 写真 N-003	3.5m	20m	長野県飯田市川路大野 4693	県
B	鳳来寺のネズの樹 写真 N-004	3.52m	9m	愛知県新城市門谷字下浦 30-4	県
B	西光寺跡のネズ 写真 N-005	M3.3m(1.3m 2015)	21m	兵庫県篠山市畑市	市
C	井立のネズの木 写真 N-006	2.8m	不明	岡山県笠岡市走出字池平	市



◀写真 N-001

日本一のネズ

かなえ おお
金江の大ムロノキ

ムロノキとはネズのことである。主幹は白骨化し、根元分岐で背後に倒れた幹と、3mで主幹から東側に伸びる幹が生きている。



▲写真 N-003

川路のネズミサシ

(写真・Web 画像)



◀写真 N-002

にのみや
二宮のネズ

主幹が生きているネズとしては日本一。地上2mで大小2分岐、主幹は縦に皺が走り、半分樹皮が脱落して生きている。側幹は白骨化している。

▲写真 N-004

ほうらいじ
鳳来寺のネズの樹

鳳来寺参道の手前に立つ単幹樹で、白骨化した枝が目立つが、樹勢は回復しつつあるという。(写真・原一興)



◀写真 N-006

いだち
井立のネズの木

(写真・Web 画像)

写真 N-005▶

さいこうじあと
西光寺跡のネズ

畑市集落の奥、西光寺跡の石垣の上に立つ。樹下には小さな祠があり、集落の御神木となっている。

